

## 第4回印西市部活動地域移行推進協議会 議事録

日時：令和5年12月18日（月）

13：30～15：47

場所：市役所41会議室

### 《出席委員》

青木 和浩委員 渡邊 義規委員 吉野 高明委員 荻原 健一委員

岡本 一弘委員 川嶋 将行委員 土屋 茂巳委員 飯島 正義委員

### 《出席事務局職員》

印西市教育委員会指導課 課長 石川 真樹子

印西市教育委員会指導課 副参事 飯野 晋二

印西市教育委員会指導課 指導主事 山崎 智貴

### 《傍聴者》

1名

### 《次第》

開会

1 会長挨拶

2 報告事項

(1) 千葉県教育振興部保健体育課からの情報提供 (非公開)

(2) 印西市部活動地域移行アンケートの分析・結果 (公開)

3 協議事項

(1) 印西市部活動地域移行リーフレットvol.2について (非公開)

(2) 次年度以降のスケジュール (公開)

4 その他

(1) 他市町の進捗状況

(2) その他

閉会

## 【議事要旨】

### 開会

司会

皆様こんにちは。本日はご多忙のところお集りいただきまして誠にありがとうございます。ただいまより「令和5年度第4回印西市部活動地域移行推進協議会」を開催いたします。議事に入る前に申し上げます。本協議会は印西市市民参加条例第11条4項の規定に基づき、会議公開に伴う傍聴席の設置と会議録作成のための録音機材を設置して、録音させていただきますことをご了承ください。現在1名の傍聴希望の方がいらっしゃって入室されております。

### 1 会長挨拶

司会

次第に沿って進めさせていただきます。次第1、会長挨拶、青木会長お願いいたします。

会長

皆さん、こんにちは。本日は委員の皆様方、大変お忙しい中、印西市部活動地域移行推進協議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。昨日は12月といえども非常に気温が高かったのに、今日は寒くなってきて寒暖の差が非常に激しいですが、皆様におかれましては、健康面、十分気をつけていただければと思います。また、私どもの大学でも現在インフルエンザが非常に流行しておりまして、市内の小中学校でもインフルエンザが流行しているということも耳にしております。ぜひとも健康にはご留意いただきたいと思います。

本協議会は今年度予定している最後の会議になります。前回の協議会では、モデル事業と予算のスケジュールについて協議をしていただきました。その後、児童生徒・保護者向けアンケートの実施をしていただきまして、今日はその結果を踏まえて、具体的に印西市の地域移行を設定していくことになると思います。現在いくつかの自治体でモデル事業が行われて、成果や課題の情報も入ってきております。印西市でも様々な情報をキャッチしながら、印西市の地域移行の形を進めていければと思います。

重ねてお話をさせていただいておりますが、この地域移行という新規事業は非常に難しいということを協議会委員の方々も痛感しているところだと思います。大会参加の規定にしても、スポーツ競技だけではなく文化芸術系の吹奏楽部も考慮しなければならないことも、令和8年度の地域移行に向けて着実に一步一步進めていくことが重要かと思います。印西市の地域移行は印西市の地域性や事情も踏まえながら、失敗をしないということを前提に慎重に進めていきたいと考えております。本日も委員の皆様におかれましては、今日も多くの議題がありますので、慎重審議をお願いいたします。

## 2 報告事項

司会

ありがとうございました。それでは次第2、報告事項に入らせていただきます。(1)千葉県からの情報提供について事務局より説明いたします。

事務局

1 1月末に開催された千葉県教育振興部保健体育課主催の部活動地域移行担当者会議で県教委から示された部活動地域移行の方針等について情報提供させていただきます。

別添資料1①、千葉県が示す部活動への意識改革について、千葉県の担当指導主事から社会全体の意識改革をしなければ地域移行は進まないという伝達がありました。1964年の東京オリンピックから2020年の東京オリンピックまでの学校部活動の在り方や学校の部活動の位置づけが青いフローチャートに並んでおります。

現在、部活動を指導している先生方や、現在部活動に取り組んでいる生徒の保護者が中高生だった頃、部活動に求められていたものが大きい時代でした。その中で、部活動に取り組み、青春を送ってきたという経験を持つ人たちが多い世代です。その頃の部活動とこれからの部活動の形は大きく扱いが変化していくということを前提に考えなければこの部活動地域移行が進まないと考えられています。学校部活動に依存していたスポーツや文化芸術に関して、生涯スポーツ・文化芸術として考え方を大きく変更していかなければ地域移行は進んでいきません。教員と保護者の意識改革をするためにも丁寧に説明する必要があると伝達がありました。

別添資料1②、学校部活動と地域クラブの違いについても、県教委から説明がありました。今回実施した市の部活動地域移行アンケートの中でも、部活動と地域クラブの違いについてよくわかっていない児童生徒・保護者が多くいらっしゃいました。県の資料を基に説明すると、平日に行われる活動を学校部活動として、休日に行われる活動を地域クラブとして想定しているとのことです。この平日か休日かというところで大きな違いがあると説明されました。資料右側に休日の地域クラブの在り方として、県が示す①平日と独立した地域クラブ活動を行うパターン(本来の休日の在り方)が学校部活動とは違う枠組みでの地域移行への取り組みで、今までの協議会の中で印西市が考えてきたイメージに近い形の地域クラブです。県が示す②が拠点校方式として平日の延長で地域クラブ活動を行うパターン(従来の在り方)は、学校の部活動の母体をそのままにして、兼職兼業の教員や外部指導者や地域の指導者が休日の活動を指導する地域クラブです。近隣市のモデル事業は県の示す②で実施しております。印西市は県の示す①本来の在り方に近い地域クラブの創設を目指して今まで準備してきております。

別添資料1③部活動と地域クラブの経費について、本協議会でも受益者負担というキーワードが何度も出てきております。保護者の中には、部活動には金銭的負担がなかったのが地域クラブになると金銭的負担が発生すると思っている方がいらっしゃいます。部活動では、指導者の謝金や施設使用料はたしかに無償でしたが、活動費については、PTA会費や生徒会費など

の形で家庭から徴収されたお金を部費として配分しており、名目が違うだけで金銭的負担はありませんでした。地域クラブになると、指導者への謝金や施設の使用料など実際には負担は増えるかもしれませんが、もともと部活動にも家庭からの金銭的負担が発生していたことを伝える必要があると県教委から説明がありました。持続可能なスポーツや文化芸術を展開するには、長年ボランティアに頼っていた構造自体を見直さなければならない時期が来たのかもしれませんが。

別添資料1④大会の運営について、新人戦や総合体育大会などの小中学校体育連盟（以下、小中体連）主催大会についての規定を載せています。生徒に関しては、教育委員会が連立主催者（共催）であることから、参加する立場にかかわらず、活動内容に学校教育との関連性が認められる点を重視し、従来通りとすると明記されており、全国的に部活動地域移行が進んだとしても、小中体連は、現状を維持するような方向性ということが示されています。県教委からも小中体連に働きかけをしているようですが、実際専門部によって実態が異なっており、現状扱いも違うため、統一することは難しいと説明がありました。大会運営については、抜本的な構造の変更は見られません。地域クラブ参加可能な競技もありますが、全ての競技や専門部で地域クラブが参加可能というわけではないことが問題点として上がっています。県が示す①平日と独立した地域クラブ活動を行うパターン（本来の休日の在り方）の場合、地域クラブに所属しても大会に出場できない生徒が出てきてしまう可能性があります。せっかくの活動するチャンスを得た生徒に不利益を与える可能性もあります。

ただし、県が示す②拠点校方式として平日の延長として地域クラブ活動を行うパターン（従来の在り方）では、印西市の実態としてのデメリットを解決できないところに問題点があると思っています。拠点校方式では教員の負担軽減の部分のメリットはありますが、小規模校の部活動の数や部員の減少で活動を維持できない部活動を救うこともできません。小規模校と大規模校が混在する印西市においては、すべての中学生に公平にチャンスを与えられずデメリットを解決することができないと事務局では考えております。その点も踏まえて、本来の在り方として示されている印西市が目指すべき地域クラブの方向性に進むべきなのか考慮しなければならないと感じました。来年の1月に印西市と県の部活動地域移行担当と情報を交換する時間を持つことになりましたので、印西市の実情や目指すべき方向性について県に直接問い合わせたいと思っております。どちらの方針にも良い面、悪い面があり、選択としては難しいのですが、これから地域移行の準備を進めていく上で、大きな選択をしなければならない時期にきています。本日ご意見をいただき、県の担当者との打ち合わせでいろいろアドバイスをいただいて、できるだけ今まで考えて準備してきた形で、地域移行を実行できるようにしていこうと思っております。

最後は報告事項になります。別添資料1の最後のページには千葉県が紹介した部活動地域クラブ活動人材バンクと部活動アプリの資料です。

司会

この報告事項について、ご質問やご発言のある委員いらっしゃいましたらお願いいたします。

委員

印西市の地域移行の方向性は若干変わりましたか。統合型地域クラブで提案していただいて、今回はそれがどちらかというとは休日は地域クラブということで説明がありました。

事務局

統合型地域クラブの形の考え方は変わっていません。現段階だと、平日と休日の部活動の形は全く違うものだとした上で、その休日の活動をどのように地域移行すべきかと考えています。

委員

この説明だと、平日の部活動と休日の地域クラブと活動内容が、基本的に同じ方向ではありませんか。

事務局

例えば、平日陸上部に所属している生徒が、休日の地域陸上クラブに登録してもしなくても子どもたちの自由なので、将来的に多くの競技の地域クラブを設定すると、平日は陸上部に所属して、休日は地域野球クラブに参加することも可能性としてあり得ます。

委員

前回までの自分の認識が間違っていたかもしれません。僕はそのパターンの方が理想だと思っていました。

会長

これはなかなか難しいですね。県が示す②拠点校方式として平日の延長として地域クラブ活動を行うパターン（従来の在り方）は、印西市の場合ですと、部員が70人もいる大規模校と部員が2人しかいない小規模校をそれぞれ同じ1団体としてカウントする仕組みになります。大きな部活動にも小さな部活動にも指導者も練習場所もそれぞれに必要になります。小規模校の小規模部活動を維持するよりも、統合していった方が、運営面でも生徒の立場でもメリットがあるだろうと考えられるわけです。しかし、統合型地域クラブを設定したとしても、実は小中体連の大会には出場できないという可能性があることも事務局から報告がありました。そうすると、そもそも良かれと思ってこの統合型地域クラブを計画準備しているのに、試合や大会に参加出場できなければ、子どもたちに不利益が発生してしまいます。理想と現実のギャップを1月の県の担当者との情報交換会で明らかにしてもらわないと地域移行が進みません。クラブチームの参加が可能な競技もありますが、統一できないということを考慮すると、印西市では統合型地域クラブ（本来の在り方）の方向で進んでいますが、小中体連の状況によってブレーキをかけざるを得ない状況も知っておかなければなりません。大会に出場しなくても良いなら、何のしがらみもなく理想の形で地域移行が進むのですが、様々な要因や課題に直面することによって、なかなか進まなくなってしまうのが現状です。アンケート結果からも、子どもた

ち、保護者ともに大会にこだわる回答も多くありましたので、考慮しなければならない要因だと思います。改めて地域移行は簡単には進まないものです。

委員

そもそも人数の少ない中学校では、総体などにはどのように参加しているのですか。

事務局

合同チームで参加が許されている種目もあります。野球は単独チームで出場しているのは数校しかなく、市内の多くの学校は合同チームで出場しています。バスケットも合同チームで出場している学校もあります。学校での出場しか認められていない種目もあります。陸上競技や駅伝などは合同チームや統合型地域クラブの参加は認められていないようです。

会長

陸上部に所属する小規模校の2人も本当に陸上部に入りたかったとは限らないですね。本当は他の競技や種目に取り組みたかったけど、陸上部しか設置がなかったので仕方なく入部したのかもしれませんが。拠点校方式で地域移行を進めると、印西市の実情にあるこういうケースではデメリットが多いです。

司会

1月に県教委と直接情報交換する機会がありますので、お気づきの点ありましたら、こちらの方にご意見をお寄せいただければありがたいと思います。次に進めさせていただきます。(2)印西市部活動地域移行アンケートの結果分析について事務局よりご説明いたします。

事務局

別添資料7ページから28ページまでアンケート結果を掲載しております。この協議会では時間が限られていますので、あらかじめポイントを絞って分析したものを、協議会資料1ページに掲載しました。

まず、アンケート項目「部活動で身につけたい力」について児童生徒と保護者のどちらの立場にも質問しましたが、共通して割合が高かった回答は「友達と楽しく練習活動する」と「体力技術の向上」という点の二つです。児童生徒は部活動に取り組む当の本人ですから、「良い成績を収めたい」という回答も半数弱ありました。一方で、保護者では、「チームワークや協調性を学ぶ」という項目が80%と非常に高い割合での回答となりました。児童生徒と保護者の間では多少部活動に対する認識の違いはありますが、「友達と楽しく練習する」「楽しく通ってくれる」というところに重点が置かれているようです。

次に、アンケート項目「平日の部活動と休日の地域クラブの所属について」というアンケート項目についてです。今回のアンケートの自由記述でも多く出ましたが、地域クラブとは何かをしっかりと理解している人が少ない印象を受けています。この地域クラブという認識を理解した上で回答しているのかどうかわかりませんが、「平日の部活動と休日の地域クラブのどちらも同じ種目に取り組みたい」と思っている児童生徒は40%でした。保護者の感覚では、今まで

の部活動の感覚と同じように、平日も休日も同じ種目に取り組むのが当然だろうという感覚の方が多く、56%でした。「部活動と地域クラブでは、違う種目に取り組みたい」と感じている児童生徒も保護者も10%程度いました。様々なスポーツや文化芸術に楽しみたいという回答もありました。一方で、「休日の地域クラブには参加したくない」児童生徒が40%、「参加させたくない」保護者が20%弱いました。もしかしたら、休日の部活動が今後も続いていくという認識を持っている人もいるかもしれません。また、「部活動も地域クラブも本人次第」、「子どもが望むなら」、「子どものやる気次第と子どもの考えによって応援する」という保護者の意見も多く見られました。

記述欄を分析していくと、保護者の不安材料として、「送迎の負担について」と「指導者の質やその責任について」の質問や意見などが多く見られました。一方で、「専門的な指導を望める」という意見が70%、「教員の負担軽減」が67%と、地域移行の趣旨に理解を示している保護者も多数いるという印象を受けています。大会参加や協会への選手登録、文化部の地域移行の方法、印西市の地域移行の時期や方法など、現段階で、本協議会でも解決できていない課題を上げている保護者も見られました。部活動や地域クラブについて、現在行われている部活動より時間や練習の拘束を緩めて欲しいという意見と、今まで以上の練習時間や取組を求める意見と両極端な意見もありました。

児童生徒のアンケート結果を見てみると、部活動地域移行について十分理解している児童生徒が少ないという印象を受けました。「なぜ地域移行をするのか」、「地域移行のメリット」等、部活動地域移行の根本的な部分をまだ知らないという意見が多くありました。他にも、ダンスやボルダリング、ラグビーなど、現状部活動に設定されていない競技や種目の新設を望む声がありました。

また、性差いわゆるジェンダーに関する意見もありました。例えばこの学校には女子バレー部はあるのに、男子バレー部がない。部活動の創設をお願いしても対応してもらえない。女子だけど、野球部やサッカー部に入りたいなどの意見も見られます。学校事情や活動場所の都合で創設されてこなかった競技や種目を望む児童生徒には、この地域移行によって自分の取り組みたい種目の地域クラブに所属することができることがメリットだと思っております。「現状の部活動で満足しているので、地域移行して欲しくない」「今の仲間と取り組みたい」、「今の顧問の先生より、地域クラブの方がしっかりと専門的に指導してもらえる」などの意見もありました。

今回のアンケートによって、印西市の児童生徒や保護者の部活動地域移行に対する実態把握は十分にできました。児童生徒、保護者から出た質問に対して丁寧に回答していき、しっかりと印西市が取り組もうとしている地域移行の姿を示していく必要があると感じました。私たち事務局や協議会の委員ですら、疑問や不安な点が多々ある部活動地域移行ですから、当事者の児童生徒や保護者については、もっと不安に思う部分が大いと思っております。

不確かな部分も多く、まだまだ課題山積ですが、市の方針や取り組みについて丁寧に説明をしていき、理解を求めながら地域移行の形を作っていく必要があると感じます。

「なぜ地域移行をするのか」、「地域移行をする意味があるのか」など部活動地域移行について否定的な意見が多いということも、他市に見られない印西市の特徴だと会長も注視しておりました。

司会

部活動地域移行アンケートについて、何かございましたらお願いいたします。

会長

児童生徒については授業中にアンケートを実施したのですか。

事務局

帰りの会や学活の授業内でのアンケート実施を依頼し、概ね授業内でアンケートを実施していただきました。

会長

保護者の回答率26%というのは保護者のアンケートの割合からいくと高いのですか。

委員

学校評価はだいたい7割くらいの回答率になります。3割以下のアンケートはありません。

会長

地域移行についてあまりわかっていない保護者や答えようがないという保護者もいるのかもしれない。他市町でもアンケートを実施していますので、地域移行というテーマが他市も含めて回答率が低いのか、それとも印西市の保護者の関心が低いのかその辺りは、他市の担当者とも情報交換する必要があるのかもしれない。

やはり印西市は保護者の方々がかなり専門的で地域移行の根幹の部分に立ち入って、学校の仕組みを理解した上で意見を書かれている人もいる印象です。裏を返すと、印西市の中で様々な部活動が良い成績を収めているところも多い状況でなぜ地域移行をする必要があるのかという考えの保護者も多いのかもしれない。地域移行によって、全国大会等でより良い成績を狙えるかもしれない期待や、逆に競技力が衰退してしまい全国大会に進出できない不安のような意見もあります。子どもたちの競技力の点をイメージされている意見や考えが多い反面、部活動は、体力的にも時間的にも拘束が強いから緩めてほしいという意見の保護者も見られます。こちらが地域移行を準備していく上で、対照的な意見によってどの部分に焦点を当て基準を設定していくのか大変難しい判断になりそうです。

大規模校や小規模校の観点で生徒に公平な機会を与える観点もあるし、強豪部活動のある学校やそうではない学校もあります。市として準備できることに加え、学校の事情や地域性などの要素も入ってくると、さらに細分化されてますます難しくなるということもあります。この辺りについて、保護者の問い合わせ先は学校ですか、教育委員会ですか。

司会

この地域移行に関する問い合わせは指導課と案内させていただいておりますが、特に今のところの問い合わせというのはこちらには来ていません。

会長

学校の方にも問い合わせはありますか。

委員

中学校にも問い合わせはありません。

会長

本当に保護者もまだ部活動地域移行を知らない、わからないという状況なのかもしれません。ですから、事務局から提案があったとおり、部活動地域移行について丁寧に説明していくしかないということです。拠点校方式や統合型地域クラブなどのシステム自体が、今まで部活動に携わってきた方々には全く想像がつかない話なので、保護者はもちろん現場の教員も地域移行に熟知している人は少ないです。

委員

大会の開催については、平日の部活動は通常通り実施して、休日の大会については通常通り行われるのですか。格差が出るとしたら、休日の活動がなくなり練習しなくなった分、競技力が落ちるかということになるかもしれませんが、他の市町村も同じように、休日の活動がどんな形であれ地域に移行するのであれば、県内では公平・平等と言えませんか。あまり気にしなくても良い気がします。私事で何年も前の話ですが、自分の息子は、平日は陸上部に所属していて休日はラグビークラブに所属していたのですが、出場できる陸上の大会については陸上部の顧問の先生にお願いして出場させていただいておりました。そういうことも可能になるのであれば、自由度が広がる気がします。

司会

現状の部活動においても、もっと部活動を通して心身ともに鍛えてほしいと考える方もいれば、子どもにしっかりと休養をとることを望む方もいます。保護者、子どもたちの考え方は千差万別というのが現状だと思います。部活動地域移行というテーマで万人に100%の賛成を得るのはなかなか難しいですが、どの子にとってもデメリットをなくし、メリットが大きいところを着地点としていくことが大切だと思います。このアンケート結果も踏まえながら、より良いものを生み出していきたいと思っております。では、次第2、報告事項はここまでとさせていただきます。

### 3 協議事項

司会

次第3、協議事項に入りますが、当協議会設置要綱第7条1項の規定により、議長は会長が務めることになっており、協議事項につきましては会長に進行をしていただきます。

会長

はじめに、協議会の署名を荻原委員と川嶋委員にお願いしたいと思います。

事務局から報告がありましたが、千葉県の方針とともに印西市の児童生徒の保護者の実態が見えてきました。今回も慎重審議をお願いしたいと思います。今年度最後の協議会ということで次年度のスケジュールについても事務局から提案がございます。令和8年度中には地域移行を成し遂げようと準備して参りましたので、万全の体制で進めるようにしていきたいと思っております。協議会で定められた方向性のもと事務局も準備しておりますが、不透明な部分も多く、状況によっては地域移行の時期や移行の状況も柔軟な対応が求められるかと思えます。すべてネガティブに捉えていくわけにもいきませんので、部活動地域移行が教員の働き方改革というところに端を発していますが、やはり子どもたちに不利益がないということも非常に重要な観点ですから、その部分は念頭に置いて協議していきたいと思えます。慎重審議のほどよろしくお願いたします。

次第3協議事項（1）部活動地域移行リーフレットvol.2について事務局からお願いします。  
事務局

協議会資料3ページ、「印西市の部活動地域移行についてvol.2（案）」をご覧ください。児童生徒や保護者の中には部活動地域移行のことを十分に理解するところまで周知はされていません。県の担当者会議でも、自治体の担当者によって認識が違っている部分が多くありますし、各自治体の実態に応じて統一するものではないと県教委も明言しておりました。

印西市の児童生徒や保護者に、印西市が取り組もうとしている地域移行の在り方をしっかりと周知し、理解していただきながら、令和8年度中の地域移行実施に向けて準備していかなければならないと思っております。

アンケート結果や質問に対する指導課の回答を前協議会の時に始めたリーフレットに記載して、学校や児童生徒、保護者に向けて情報発信を進めていこうと考えています。1枚のリーフレットに多くの情報を載せることは難しいので、今回のアンケート結果と、あと千葉県の方針については、このリーフレットの中にQRコードとして記載しました。多く質問をいただきました部活動地域移行とはどういうことなのか、そして地域クラブとは何なのかということについて説明を入れたリーフレットを作成しました。

今後、これ以外にも、その他の質問がありますので、その質問に回答する形で、継続的にリーフレットを発信して、児童生徒、保護者の理解を得られるように丁寧に説明をしていこうというふうに考えております。以上です。

会長

ただいま事務局からご提案ありましたリーフレットについて、ご質問、ご意見を願います。

す。ちなみにこのアンケート結果の部活動地域移行に否定的な意見も公開する予定ですか。

事務局

現状では、すべてのアンケート結果にリンクするQRコードを掲載しています。公開する内容に精査が必要ならば、それも踏まえてご意見をいただきたいです。

会長

委員の皆様を確認ですが、アンケート結果はありのままの状態を見せた方が良いのですか。

委員

前回のリーフレットの発行はいつですか。

事務局

リーフレットの発行は10月末に高学年の小学生と中学生の家庭にスクリレで配信し周知した後、11月中旬から下旬にかけて部活動地域移行のアンケート実施をしております。アンケート結果を周知するリーフレットvo1.2は、この協議会を経て、発行しますので11月中の発行を予定しています。

会長

児童と保護者のアンケートの結果について、もう少しオブラートに包んだ方がいいのか、単刀直入に出てきた意見をそのまま出した方がいいのか委員の皆様に見ていただいて意見をいただきますよう。

委員

様々な保護者からのすべての意見を読みました。一人一人の意見や考え方がバラバラですので、すべての要望を地域移行の事業に組み入れるのは難しいと思います。先ほど事務局から丁寧説明していくということでありましたが、この説明は学校単位で行うのですか。

事務局

これを学校で説明するのは現段階では難しいと思います。

委員

学校ではまだ説明はしていません。学校単位で説明会をするといろいろ差異が生まれます。

委員

実際、学校単位での説明会は非常に難しいと思います。事務局で説明会を開催し説明していくということによろしいでしょうか。

事務局

今のところはリーフレットの発行を指導課が行い、保護者へのスクリレの配信について学校に依頼しています。今後詳しく説明が求められるのであれば、教育委員会が説明会を実施する形になると思います。

委員

説明会も必要かもしれません。

会長

いずれ必ず説明会は必要になります。

委員

前回のリーフレットに記載された休日に活動できる受け皿を市が設置していくという内容から、今回のリーフレットでは平日は学校部活動が残り、休日について部活動を切り離す指針が示されていますと説明されても、協議会に参加している自分ですらそうなのかと衝撃を受けています。これを読む人には非常に唐突感が強いと思います。基本的に学校の部活動が平日限定になっていくことを周知するリーフレットを作成しないと周知すること自体がマイナスになってしまいます。

会長

もう少しオブラートに包んでも良いと思います。

委員

このリーフレットは何回ぐらい発行する予定ですか。

事務局

事務局としては今年度中にあと3回程度発行したいと考えています。

会長

複数回の発行を考えられているなら、アンケートの要約を今回のリーフレットに記載して、保護者からの要望や不安、多く集まった意見を公開するのが良いかもしれません。一度アンケートに対するステップを踏んでおいて、今後、国から示されているような指針と照らし合わせながら、地域移行について丁寧に説明をしていくのが良いと思います。次のステップで、具体的に平日と休日の部活動の違いや地域移行の仕組みの部分を周知しても良いと思います。千葉県の方針をvol.3で紹介して、印西市のアンケートの結果から見て、市として地域移行の最善の方法として考えていることをvol.4で示していくのが良いかもしれません。

事務局

わかりました。その流れで検討し作成します。

会長

リーフレットvol.2には要約を出した上で、アンケート結果をQRコードにして全部公開しましょうか。情報公開の時代なので意見や情報はそのまま公開した方が良いと思います。

委員

アンケートをとったからには率直に公開して良いのではないかと思います。結果を操作して公開しても、私の回答がないと思う人もいるわけですから。

会長

シンプルにアンケート結果をまとめていただいたものを素直に公開した上で、様々な考えやご意見に対して今後丁寧に説明したいという趣旨を掲載していくようなリーフレットを作成し

てもらいましょう。どちらにしても将来的には説明会は必要です。現段階で説明会の計画はありますか。

事務局

今後のスケジュール（案）には記載しておりますが、どんな方針で地域移行するのかが決定しないと説明会はできません。将来的なビジョンや具体的な運営方法が決まった状態ではないと説明会をしても、逆に質問ばかりされて何もお答えすることができません。

会長

説明会の対象者は誰ですか。

事務局

保護者向け、学校の教員向け、状況によっては外部指導者向けの説明会が必要になるかもしれません。

会長

説明会についても他市から情報を仕入れる必要があるかもしれません。どの自治体の担当者も同じ悩みを抱えていると思うので、例えば北総地区や印旛地区の規模で説明会を開催できるのであれば一括して県の担当などに説明していただくのも一つの方法だと思います。

事務局

地域移行の方針の部分の説明に関しては、県や北総、印旛の規模で開催してもらい、それに対しての方策を市の担当で行うような形で説明会を実施することはありがたいです。

会長

現実的には難しいかもしれません。そういうものがあると各自治体はありがたいと思います。

委員

市が設置しようとしている地域クラブがどのようなイメージになるのかをわかりやすく周知して理解してもらった上で、受益者負担が前提なのであれば、受益者負担など費用的な面も周知していく必要があります。まずは地域クラブが何なのか丁寧にリーフレットに掲載するのが良いと思います。

会長

質問に対する市の回答については、次号以降で良さそうです。まずは、アンケートのお礼と多く寄せられた意見を並べて、説明しなければならないものをvol.3以降のリーフレットで公開していく形が良いでしょう。アンケート結果はすべて公開するということが宜しいですか。

委員

<承諾>

委員

地域クラブのことで気になったことを申し上げます。リーフレットを読むと地域クラブが休日の部活動のことだと認識できたり、既存のクラブのことと認識できたり、それとも、市が新

たに設置するクラブのことで認識できたり、文化芸術に触れる機会にも供するクラブなのかなと受け取ることもできるのですが、既存の施設、既存のクラブに委託をするのか、それとも市が新たに組織を作って運営するのか、今後の見通しやイメージしているものが乖離しないものか気になります。

事務局

ここで挙げている地域クラブは、市が受け皿として設定するクラブのことを指しています。具体的なクラブ名を出した方がわかりやすいのですが、既存のクラブは硬式野球のクラブチームやサッカーのクラブチームなど、現在、月謝を徴収し生徒を集めているクラブを既存のクラブと認識しています。地域クラブは、この協議会を経て、市が休日の部活動の受け皿として設定するクラブを地域クラブとして準備しています。

委員

そのような組織が新たにできる認識で良いですね。

事務局

文化系部活動に関しては、休日の活動があるのは吹奏楽部だけなので吹奏楽地域クラブの設定を考えています。他の美術や文芸、科学の文化系部活動については、公民館等で実施されている既存の教室やサークルなどを活用していこうと考えています。吹奏楽だけ地域クラブを考えていますので多種多様な地域クラブを設定する予定はありません。

委員

のちのち方向転換とかは大丈夫ですか。

委員

市で設置を予定しているクラブについては具体的に周知してしまった方が、新規の種目を要望する人たちに期待を持たせ過ぎないと思います。第2回の協議会資料にあるように、実際に休日に行われている部活動の受け皿を設定していこうと考えていることを周知した方が良いでしょう。

委員

1つの競技や種目について1つのクラブを設置するのですか。

事務局

競技の人口によっては複数クラブを設置する予定です。市内全部で50～70クラブ程度の設定を想定しています。

会長

リーフレットvol.3で予定している設置クラブを提示しながら、わかりやすく図示できると市民にもわかりやすいかもしれません。大規模校の生徒も人が多すぎるのを嫌がり自分の所属する学校の部活動よりも小規模なクラブを選ぶ生徒も出てくると思います。拠点校方式の地域クラブだと学校部活動に紐づいているから生徒に選ぶチャンスがないわけで、自分の学校に設定

のない様々な競技やクラブを選択できるところがメリットです。ただ、統合型地域クラブだと大会や試合に出場できなくなってしまうという恐れもあるので、一概にメリットばかりではないという状況です。アンケートの質問内容について、市が独自で回答できる範疇ではないものもたくさんありました。スポーツ庁の政策の部分や県の方針については市が説明できるものではありません。

事務局

大会参加や選手登録については小中体連や各競技の協会の方針もありますので市が回答できるものでもありません。

会長

それはこちらが決めることではないですから、小中体連や各競技協会の方針を市が示すことはできません。

事務局

大会参加については、担当者会議でも話題に挙がりました。しかし、県の回答としては自治体によって課題が違うので統一できません。学校単位で大会に参加するのか、地域クラブ単位で大会に参加するのかは、市が決めることだと伝達がありました。結局答えが見えないままというのが現状ですね。

会長

受験や内申書にこの地域クラブが反映するのかなど進路に関することも保護者が気になるところです。必ず進路関係の質問はいずれ出てくると思います。政策や県の方針など市として答えられない部分があると正直に話した方が、市民に対して誠意があると思います。市として精一杯取り組んだ上で、出せる回答はこれだと示すことも誠意だと思います。

次に協議事項（２）、次年度以降のスケジュールについて事務局お願いします。

事務局

資料４～６ページです。令和６年度～令和８年度の県が示す改革期間の印西市のスケジュール（案）を掲載しております。令和８年度の新チームになる９月に本格的な地域移行実施を目指して準備していく中で、助走ができるならモデル事業を実施した方が良いという意見をいただきましたので、モデル事業を実施すると仮定した上で、スケジュール（案）を作成いたしました。国や県でも今後の見通しが立たずに曖昧な部分もありますので、このスケジュール通り進むことができるかということ、柔軟に対応しなければならない場面もあると思います。暫定のスケジュールではありますが、委員の皆様からのご意見をもとに次年度以降のスケジュールを決定していきたいと思っております。

簡単に年度ごとにご説明いたします。まず、令和６年度です。前協議会で新規の事業の仕様書を作るのは大変な作業だとお聞きして、令和６年度中に印西市がどのような部分をどのように業務委託するかということ进行分析しながら、仕様書の作成をしていこうと思っております。

モデルを実施するなら、市内9校の中学校対象での1～2種目のモデル実施を考えております。競技種目においては、当初、陸上競技で実施しようと考えておりましたが、大会参加に様々な条件や制限があることから印西市の地域移行のモデル実施には不向きだと考えています。校長会等、学校側と協議させていただきながら1～2種目を選定し、モデル事業の仕様書を完成させたいと考えております。モデル事業のみの暫定的な実施ではなく、あくまでも本格的な地域移行実施を焦点に入れながらモデルの準備をしていかなければなりません。秋には予算積算があります。モデル実施については補正予算も可能とのご助言をいただきましたので、モデル実施のための補正予算の積算や、令和7年度～8年度の本格実施のためのプロポーザルに係る部分の当初予算の積算などの準備が令和6年度の流れです。資料のグレーの網掛けがモデル事業に関わる準備で、黄色の網掛けが令和8年度中に始める本格的な地域移行事業の準備です。令和6年度8月から9月に、令和7年度の当初予算の予算取りと書いてあるのは、令和7年度中にはプロポーザルや契約締結を完了し、令和8年度に入ったら説明会や外部指導者の人材登録、生徒の地域クラブ登録などの準備に入るためには、令和6年度の予算要求で令和7年度当初予算の積算をしなければならないと考えています。

次に、令和7年度がスケジュールを計画しながら非常にタイトだと思いましたが、モデル事業の準備を行いながら、本格的部活動地域移行事業の仕様書を作成しないといけない形で、グレーの網掛けのモデル事業の取り組みと黄色の網掛けの本格的な地域移行事業が並列に進行していく形になっていきます。9月になると、モデルの事業がスタート、実際に休日の地域移行の部活動の視察をしてモデル事業の分析をしながら、令和8年度の当初予算の積算をしていきます。令和7年度の後半では、令和8年度の本格実施のプロポーザルや契約締結に動いていきます。

最後に、令和8年度はモデル事業の検証・分析を受け、黄色の網掛けの本格的な部活動地域移行事業の準備をモデル事業と同様に4月～5月には、教職員説明会、保護者説明会、外部指導者説明会などの説明会を開催、生徒も指導者も地域クラブ登録をした上で、新チームになる9月から部活動地域移行の本格実施をしていく流れでスケジュールを組んでおります。

まだ行政側のスケジュールがわかっていない部分がございますので、予算積算やプロポーザルのスケジュールがこれで間に合うのか、学校側として無理がないのかも含め、ご助言・ご指摘いただいたものを基に、スケジュールの確定版を作成していきたいと思っております。以上です。

会長

素人目には、令和7年のグレーと黄色が並列で進行しているスケジュールはかなりタイトだと映ってしまうのですが、モデルの効果検証する前に本格的な地域移行の仕様書を作成しなければならないということで、行政的に効果検証ができるのかなと疑問に思ってしまう。分析する前に次年度の仕様書や予算積算という流れは、行政の立て付け上仕方ないことなのでしょうか。今までかなり丁寧に審議してきた割には、急加速していることが否めないと感じていま

す。このモデル事業を仮に選定する場合、校長先生方の意見や意向が大きいのですか。

委員

中学校の校長会の中ではまだ話が出たことはないです。

会長

中学校校長会でもある程度説明をしていく準備をしていかなければならないと思います。急に、稟議を回すとしても、校長会の中でも学校事情は違うと思うのでなかなかモデルの種目を制定するのは難しいと思います。市全体で指導者に困っている部活動や部員確保に困っている部活動があれば良いのですが。以前取り上げたように、新チームになる9月を基準にモデル事業にせよ本格実施にせよ地域移行をスタートするという考え方は決定事項として進んでよろしいでしょうか。

委員

校長会で決定することはできないと思いますが、市教委と連携しながら可能性を探る程度の関わりはできると思います。

会長

年度途中からの地域クラブの導入になると、協会の競技者登録の移籍なども想定されます。ある地域クラブから別の地域クラブへの移籍なども想定して設定しなければならないです。クラブを変えたり、種目を変えたりしたい人も出てくるかもしれません。練習拠点や送迎の都合等もあるでしょうし、様々なパターンでの参加が考えられます。

委員

令和8年度以降は、学校から部活動が完全に離れるのでしょうか。

事務局

モデル事業の実証段階では難しいですが、今まで協議会で提案してきた地域移行の在り方で地域クラブを設定するのであれば、もう土日で中学校の部活動を行うことは、学校の先生として指導することはありません。

会長

令和8年度にどれだけ他市でも地域移行が達成できているかわかりません。令和8年度に完全移行と言いながらも、本当に完全移行になるのかという疑問や不安も出てきます。

委員

スケジュール的なことで意見があるのですが、スケジュールはそんなに急がなくて、最低限のノルマをこなすぐらいで良いと思います。その理由は、この地域移行というのは全国的な問題であることで、国や県の動向も不確定な部分もありますが、いずれ他市の状況等を踏まえてある程度の国や県の意向が出て、足並みを揃えられる力が働いてくるのではないかと思います。この問題は単なる部活動の地域移行だけではなくて印旛郡や千葉県など他のところへ影響するので簡単なことではありませんからそんなに急がなくても良いのではないかと思います。

会長

極端に言うと、令和8年度にスタートできなくても良いということですか。

委員

はい。

会長

県や国の動向を見て、間に合わなくても致し方ないと言うと語弊ありますけども。

委員

完全移行でなくても、最低限できる範囲のところまでの実現で良いのではないかと。

会長

なるほど。100%じゃなくても良いのではないかと。

委員

そうですね。

会長

行政に勤められている方の肌感覚でも、やはりスケジュールや可能性も含めてタイトではないかというご意見です。特に仕様書の部分や検証できていないの見切り発車で本格的な地域移行の仕様書だとリスクがあります。

委員

令和8年度の9月に100%という想定だと思いますが、今の委員の話ですとそこが100%じゃなくて、例えば20%程度などできるレベルの移行で良いのではないかということですか。

委員

あまり良い意見ではありませんが、このスケジュール（案）通り諸々の準備をしていかないとどんな達成割合であれ実現できないと私は思います。予算にしても、委託契約にしても、このスケジュールで詰めないと、例えば100%じゃなくても20%としてもできません。

委員

黄色の網掛けの令和8年9月スタートするための流れでスケジュールを追わないと達成するのは難しいと思います。令和7年度にモデル事業をスタートしてすぐに本格事業の予算積算をなど並列で動くので、どれだけ検証できているのと問われてもなかなか分析できていますと言い切れない部分もありますが、令和8年度9月にスタートするには、スケジュールを後ろにずらせない状況です。一方で、諸々のスケジュールを後ろにずらせば、地域移行の本格事業のスタートを半年もしくは1年ぐらい先延ばしするなら、達成割合を改めて考え直すことや、スケジュール的な見直しすることもできると思います。

委員

スケジュールを遅らせても良いと言いましたが、スケジュールや時期、準備する内容や手順

については、概ね、スケジュール（案）通りで良いと思います。

委員

私は、令和8年の部活動地域移行本格事業に焦点を合わせてスケジュールを設定すべきだと思います。国や県の指針もですが、すでに児童生徒・保護者向けのアンケートの中で令和8年度中に地域移行を予定していることを明記しているため、これを修正するには相応の説明責任が発生します。本格実施のために丁寧に準備をして、あくまでもその実証モデルとしての位置づけで行うのであればそれで良いと思います。

モデル事業を設定するのであれば、中学校長会で事前に説明したり根回ししたりする必要があります。令和6年度からというより、今年度中に現段階の方向性を説明して意見をいただくことも大切だと思います。ぜひ校長会へ出向いて市教委から説明してください。それができれば事務局の作成してくれているスケジュール（案）は良く練られていると感じます。

会長

ポイントは、もちろん地域移行の100%を目指していきますが、スムーズに地域移行が進まないことも考えられます。他市も令和8年度をひとつの目安として準備していると思うので、人材確保の点からも、印西市だけでなく人材の枯渇や取り合いが起こった時にそもそも全国的にこの部活動地域移行事業が成り立たない可能性もあり得ます。

委員

もし、令和8年度に地域移行が達成できなかった場合、中学校の休日の部活動を行うのか、それとも休日の部活動をなしにするのかを考えておかないといけません。

事務局

吹奏楽部は現実的にかなり厳しいと考えています。近隣中核都市も部活動地域移行を先駆けて実施していますが、駅伝や陸上と吹奏楽は協会や専門部などの猛烈な反対もあり移行することができなかったようです。

委員

吹奏楽の地域移行はとても難しいと思います。

委員

楽器の運搬も考慮しないとイケないですから簡単にはいきません。そもそも学校の楽器をクラブに貸し出すのかという議論も必要になります。何を基準として部活動地域移行の100%達成かという部分もあります。

委員

スケジュール（案）には令和6年度の9月にモデル事業の予算積算がありますが、12月の補正予算ではその後のスケジュールが非常にタイトなので、補正予算の債務負担行為を令和6年度・7年度で設定して計上できると思います。ですから9月補正に焦点を合わせて準備した方が良いと思います。モデル事業にしる本格事業にしる、前年度の2月3月には契約してしま

い、履行期間を4月からにすれば問題ありません。そんな手法で予算やプロポーザルについては財政課と確認をしながら進めていった方が良いです。

会長

校長会はモデル事業をやって欲しいという意見が出ているのですか。

事務局

指導課としては、モデル事業を実施するパターンも実施しないパターンも考えています。

会長

このスケジュールでいくとしたら、モデル事業はリスクが少ないものが良いと思います。本格事業も100%を目標に準備していきますが、実際には予定通りの移行はできないことも想定してやっていかなければなりません。

事務局

当初、全中学校に設定のある陸上競技でモデル事業の実施を考えていました。しかし、大会参加や協会登録など弊害が多いという情報を得ています。リレーや駅伝は同一学校でないとチームを組むことができません。市の実態を考慮して他種目を検討すると、学校単独で成立している野球部が数校しかありません。他は合同チームを組んでいます。そういう点からも野球をモデル事業に指定し地域クラブにすることは考えられます。グラウンドで活動する集団スポーツである野球をモデルとして指定したら、室内競技の個人種目である柔道など対照的な種目で比較分析していく実証事業にすると効果を確認することも大切だと思います。どの市もモデル事業を武道系の部活動に設定することが多いのは、柔道や剣道の専門の指導者の顧問が少ないという問題もあるのかもしれませんが。印西市の柔道部は市内2校にしか設置がありません。2校での合同練習のような地域クラブを設置するケースも考えられます。そうすれば、柔道部の設定がない中学校の生徒も、この柔道地域クラブに登録して参加することもできます。

委員

業者委託という点で確認させてください。委託先の数はモデル事業で2種目にすると2つの委託先になるのですか。地域クラブの数が増えたら委託先も増えるのですか。他の自治体だと1つの組織に一括補助のような形もあるようですが、そのあたりの補助や委託の関係を確認させてください。今回モデル事業から本事業に移行する中で、例えば、債務負担の契約でモデル事業を担当する業者がそのまま本事業に移行していくのか、それとも単年度契約で、本事業は別契約で行うのかを確認したいです。

事務局

部活動地域移行に関する業務委託は、種目や競技の地域クラブごとではなく、印西市の地域移行の取り組み全体を委託する予定です。例えば、モデル事業を2種目設定する場合、野球で4地域クラブが必要、柔道で2地域クラブが必要な場合、この6団体（地域クラブ）を運営できる業者に運営を委託というイメージでいます。

委員

その地域クラブという言葉はどの組織に対して使う言葉なのか。

事務局

それぞれの種目で活動している1つの団体を地域クラブと呼んでいて、その地域クラブをまとめあげる組織をつくる業者に委託していきます。

委員

リーフレットには市が設置すると書いてあったので、そのような誤解を招く人が出るのではないかと思います。

会長

他の市町村でも同じことですが、実際には市が設定したクラブを地域クラブと呼びます。結局、ある近隣市だとある中学校の陸上部（地域クラブ）を請け負う業者へ市が委託していますし、違う近隣市もある中学校の柔道部を拠点で、柔道のやりたい生徒をその中学校に集める形態の地域クラブを市が委託しています。学校の施設を使用するので、部活動と地域クラブの認識をすることが難しくなっています。印西市においてもこの地域クラブを設定するのは教育委員会になると思います。

委員

この地域クラブについては丁寧に説明していかないと、勘違いしてしまう保護者もいると思います。

会長

当然市が設定した地域クラブなのだから市が予算を補填してほしいというご意見は出るのではないかと思います。

委員

前回の協議会では、モデルは1種目の予定だったと思いますが、今回の提案を見ると2種目と書かれています。

事務局

前日も予算取りのスケジュールで、様々なアドバイスをいただきました。モデルが必要だというご意見もありましたし、現実的にモデルの実施は難しいというご意見もありました。モデルをやるなら対照的な2種目でモデルを実施した方が、検証や効果も得やすいというご意見がございましたので、暫定の資料として2種目を想定して提案しました。

会長

無理やり設定しなくても、1～2種目くらいで可能な範囲でモデル実施する流れで準備していく感じでよろしいかと思います。状況によっては、県の情勢を見ながら、モデル事業にせよ本格事業にせよ準備を進めていくことが大切だと思います。それでは事務局にお返しします。

## 4 その他

司会

ご協議ありがとうございました。次第4その他で事務局から連絡がございます。

事務局

他市の進捗状況について口頭でお知らせします。

〈印旛管内各市町の進捗状況〉 以上です。

また、県教委との打ち合わせで何か確認したい事項があれば指導課までご連絡ください。

## 閉会

司会

今回が今年度最後の協議会になっております。まだまだ事務局も見通しが持っていない部分も多くありますので、今後また委員の皆様の方にも地域移行についての情報が入りましたらご連絡いただくと大変助かります。引き続きよろしく願いいたします。以上で第4回印西市部活動地域移行推進協議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

令和5年度第4回印西市部活動地域移行推進協議会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和6年2月7日

委員 荻原 健一

委員 川嶋 将行